

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	大阪大学
-------	------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>	目的は概ね実現された。
(コメント)	
<p> 拠点大学の国際化については、得意とする研究分野を中心として、部局による国際化計画が大学全体の戦略として明確にされている。また、総長・大学本部のイニシアティブを増す組織改革が行われ、優秀な外国人教員等の招へいに当たり、人事・給与システムの柔軟化を図るなどの工夫がされている。更に、教員の資質向上のための「教育の質保証」ハンドブックは、国際化推進の具体的試みとして評価できるとともに、外国語能力の高い職員の積極的な採用や、外部評価によって国際化の進捗状況をチェックする取組等、国際化への努力は高く評価できる。 </p> <p> 英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり開設され、コースに在籍する留学生に対する生活に必要な日本語教育への配慮もされている。一方で、大学院のコースについては、他の採択大学に比べて在籍者数が少なく、また、日本人学生に開かれてはいるものの、日本人学生の在籍者がいないなど、今後の改善が望まれる。 </p> <p> 留学生受入のための環境整備については、海外拠点の設置を概ね計画どおり進めるとともに、受入重点国からの優秀な学生を確保するために、日本留学フェアへの参加や現地高校訪問等も積極的に行っている。 </p> <p> 目標の達成状況については、留学生数及び留学生比率の両方とも目標を大幅に上回るなど良好な達成状況である。また、海外有力大学との連携プログラムについては、各地域の大学との新たな連携が進み、カップリング・インターンシップなど独創的な取組について更なる拡大が期待できる。一方で、外国人教員数及び外国人教員比率は目標を下回っており、平成32年度末の目標達成に向けた努力を期待する。なお、日本人教員の海外派遣については、全学の状況を的確に把握するとともに、今後の更なる努力が望まれる。 </p> <p> 今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、留学生受入の拡大に加え、継続を前提とした今後の方針が明確に述べられているため、今後の国際化への貢献が期待できる。 </p>	